

海技教育機構 帆船「海王丸」のセイルドリル見学会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ関係団体と連携し、商船や造船所の見学会等を「船ってサイコ〜」と題し実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力を入れております。

今般、海技教育機構のご協力のもと、11月4日（土）に静岡県清水港において、11月11日（土）に愛知県名古屋港において、帆船「海王丸」のセイルドリル見学会を地元の海洋少年団を招いて開催し、両所合わせて計22名が参加しました。

同機構職員の案内のもと、船長室、甲板、船橋のほか、実習生が日々勉強している教室等を経由しながら船内を見学し、船内の構造や船員を目指す実習生の生活に関わることで幅広く説明を受けました。



展帆見学では、高さ約50m（海面より）のマストに実習生が一斉に上っていき、次々と帆が張られていく様子に子供たちは見入っている様子でした。展帆の最中、子供たちは実際に帆に触れることができたほか、全36枚の帆は全て手縫いであることや、その全てを制作するには早くても5年かかることなどの説明を受け、驚きの声を上げていました。



また、子供たちからは「帆を張る順番は決まっているの」「船橋に用意されている旗にはどんな意味があるの」「食料はどこに保管しているの」など展帆や船内設備に関すること等の様々な質問がありました。

清水港では、子供たちは全ての帆が広げられた迫力ある海王丸を目の当たりにし、その光景に圧倒されている様子でした。

名古屋港では強風のため、残念ながら全ての帆を広げることができませんでしたが、展帆・畳帆の両方を船上から見学できる貴重な経験を行うことができました。

名古屋港では強風のため、残念ながら全ての帆を広げること

当協会は、引き続き日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

